

# ワンポイント事例

## 7 集中し続けることが難しい



学校生活の様子

Rさんは、新しいことに何でも関心を示し、教材を提示すると「それは何ですか。」「どうするのですか。」など、どんどん質問をします。しかし、一つの物事に集中し続けることがうまくできず、集中して課題に取り組む時間は10分程度で、すぐ他のことに関心が移ってしまいます。

実態把握

刺激にすぐ反応してしまふ。  
視覚的、聴覚的な情報をうまく整理したり処理したりすることが難しい。

短い時間であれば注意を持続することができる。  
細かなところまで注意することができない。

見通しをもつことがうまくできない。



考えられる支援の手立て

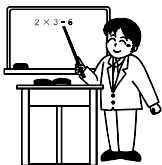
◇ 座席を窓から離して前側にしたり、前面掲示や教室内の物を整理整頓するなど、不必要な刺激を受けにくいようにする。  
◇ 分かりやすく、意欲的に取り組むことができる教材・教具を工夫する。

◇ 注意を持続できる時間で達成できる程度の課題を提示する。  
◇ 重要なポイント、見逃しやすいたところには印や色を付けたりして、注目できるようにする。  
◇ よく似たものをラベル等で区別できるようにする。

◇ 活動開始時に手順カード等（視覚情報）も活用して知らせておく。  
◇ 一つのまとまりのある活動をいくつかの段階に分けて提示する。特に、「〇〇ができたなら終わり」というように、終わりの段階を必ず確認して目標を意識付ける。

その他の支援のポイント

○ 授業の流れをパターン化（例：聞く→読む→活動する→考える→書く）し、見通しをもって学習できるようにさせる。  
○ 授業の中での一つ一つの活動の時間を、集中して取り組めるように短く区切り（モジュール化）、また、テンポのよい学習展開を心がける。  
○ 机の上に置かせるものは必要最低限にする。  
○ 学習活動を重点化して作業量を少なくする。  
○ 板書は簡潔に内容を整理して量が多くならないようにするとともに、ノートに書き写すところを減らしたり、ワークシートを活用したりする。



### 【個別的な支援の方法】

- 集中して活動できる時間を少しずつ延ばしていくようにし、はじめから長い時間集中するように要求しない。
- 教科等や学習内容・活動によって集中できる時間が異なり、どんなことに興味・関心があり、どのような活動であれば、どの程度集中できるのかなど、児童生徒の実態を把握し、集中できる活動の組合せを工夫する。
- 必要に応じて、学級のような大きな集団ではなく、小集団による学習を経験させる。